

「最終報告」に向けた委員意見

資料8

項目		御意見	委員	
1	全体	現在、会議で検討している各領域・分野別の「縦軸」の議論を、横断的に結び付けていく「横軸」の視点からの検討が必要ではないか。	和気委員	
2	(1)総論 ア 地域包括ケアシステムとは	「認知症になっても地域で暮らせる仕組み」を柱としてあげてはどうか。	大熊委員	
3	定期巡回・随時対応型訪問介護看護の充実	項目名を「 24時間対応の 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の充実」としてほしい。	馬袋委員	
4		地域密着型のサービスとしては、(看護)小規模多機能型居宅介護や配食などの介護保険外のサービスも含めて幅広く取り上げてはどうか。	田中委員	
5		介護や医療等の包括的・予防的な生活支援を行う取組の支援	秋山委員の取組(暮らしの保健室)は非常に重要ではあるが、地域包括支援センターとの役割の整理が必要ではないか。	田中委員
6		(2)医療と介護 本人の医療に関する意思決定支援	一人暮らしや認知症の高齢者が増える中で、医療に関するリビングウィルに加え、介護や住む場所に関する意思決定支援が重要ではないか。	田中委員
7	項目の追加(人材の確保)	「介護人材を安定的に確保・定着させていくための方策」を主な項目に位置づけてはどうか。	田中委員	
8		「介護分野を志す人をふやす方策、定着したくなる方策」を柱として付け加えてはどうか。	大熊委員	
9		多様な人材の参画の必要性和専門職の確保育成の必要性などについて記載してはどうか。	馬袋委員	
10	(3)介護予防と生活支援 仕事と介護の両立に関する効果的な情報提供	家族介護の支援のための情報提供は、「医療と介護」の項目にある相談拠点の整備、地域密着型サービスの普及などと組み合わせるべきではないか。	田中委員	
11	産学官民が連携した地域全体での健康づくり	中間まとめ20頁にある「元気な高齢者が社会的役割を持ち、生き生きと社会でより活躍していくための方策について」の項目が構成案で明確ではないので、項目立てが必要ではないか。	田中委員	
12	(4)高齢期の住まい方 多世代共生の仕組みづくり	「住み替えの支援」により、高齢者から子育て期の家庭への資源の循環ができる仕組みが必要ではないか。	田中委員	